

## 夏休みを利用して 3 週間の短期入院で乗り越えた

31 歳 男性 入院 2013.8.3～8.24

学童期からアトピー性皮膚炎が生じていたが、四肢屈曲部程度であった。大学時代から背部にも皮膚炎が生じ、近医にてステロイド外用治療を時々使用。

入院 1 年前から臀部に皮疹が慢性的に生じ、半年前から全身にアトピー性皮膚炎が生じるようになった。特に教師という仕事柄、運動系のクラブ活動の指導で発汗が多く、そう痒が強かった。近医皮膚科でステロイド外用、抗アレルギー剤を複数処方されていたが、初めは効果があったものの、次第に効果が薄れ皮膚炎が悪化してきたため不安になり、2013.7.1 当院受診。全身に赤みや角化、落屑があり、肌の乾燥とツッパリ感も強く、屈曲などに支障が生じていた。

脱ステロイド治療を開始し、抗真菌剤、抗生剤の外用、内服を行ったが改善が悪く、8.5 より入院し BSC を行った。

**経過** 2013.7.1 より脱ステしたため、8.5 には皮膚炎は悪化している。教師という仕事柄、休みを取ることが困難で長期の休職も考えていたが、夏休みを利用して 3 週間の入院治療を行った。皮膚炎が強いため CRP という炎症マーカーも高値だったが、3 週間の入院で皮膚炎は TARC の比較で 1/20 まで一気に低下。入院前の非ステロイド治療においては、7 種の抗生剤、抗真菌剤、抗アレルギー剤の内服、5 種の外用剤を使用している状態であったが、3 週後の退院時には、外用剤は使用せず、2 種の抗アレルギー剤内服のみにまで減量でき、仕事にも復帰できた。

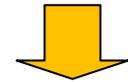
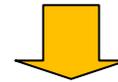
2 か月後の 10.1 の外来時には TARC、LDH、IgE、好酸球、CRP すべてが正常範囲になっていた。

BSC の素晴らしい効果：ステロイドを使用しないのにステロイド以上に効いている。

	正常値	2013.7.1	2013.8.5	9.11	外来 10.1
TARC	450 以下	4214	23452 ↑	1068 ↓ ↓	294 ↓ ↓
LDH	120～245	296	402 ↑	285 ↓	217 ↓
IgE	170 以下	2159	1993	1498 ↓	1423 ↓
好酸球	7%以下	5.7	14.5 ↑	3.7 ↓	1.0 ↓
CRP	0.3 以下		0.82	0.68 ↓	0.10 ↓
POEM 自覚症	最重症 20～28	26	28 ↑	11 ↓	11

BST 3週後の写真 色素沈着は残存しているが赤みや隆起が消え 炎症が消えているのが判る。

2013.8.3



2013.8.24

